

創刊110周年記念

誇れるふるさと
24地区リレー
〈vol.12〉

〈万倉③ 小学校歌〉

万倉小（堀明美校長、28人）は、1874年に「万倉小学」として奥万倉の天龍寺（仮校舎）に開設された。1942年に西万倉の口ノ坪に小学校を新設。2004年に万倉中、吉部中、船木中が統合して楠中が誕生したため、空いた万倉中の校舎へと移転した。148年と長い歴史を持つ同校の校歌には、地区の自然や歴史が盛り込まれて、子どもたちへの励ましがつづられている。

地元の象徴的人物、名品が登場

校歌

一 遙かに思え 信濃公
緑よにおえ わが万倉
昔も今も 燃えたちて
我等の誠 世につきず
常に鳴る鐘 万倉校

二 実に城山の 雲高く
南は 明る 有帆川
み空も 里も 清らかに
生いたつ 我等 いや探し
澄みて鳴る鐘 万倉校

三 万倉その名も 豊かなる
学びの道 はずり石
心のはげみ ひとすじに
力を合わせ 勤しまん
明日も鳴る鐘 万倉校

開校から約70年後、自然や歴史盛り込む



万倉小校舎

校歌が制定された時期や経緯は定かではないものの、地区の広報紙を手掛ける須子正実さん（88）は年配の卒業生数人の話から、終戦前の1943年もしくは44年に制定されたと推測する。

作詞、作曲は林いさお

さん（享年83歳）。歌手館の玄関近くに設置された作曲家の林さんは12年た鐘楼のこと。94年の開校120周年を記念し、関市）で生まれた。「林さんが作詞、作曲をした。当時のPTA役員が中心となり、東京に長期滞在中だったはず。専念することは極めて難しかっただろう」と須子さん。2番の歌詞は「実に城山の雲高く」「南は明る有帆川」と続く。北の城山に対して、南に有帆川とあることと「この対比は城山に登ったことのある人にか書けない」と話し、万倉を熟知している人が歌詞の素描を書いたものを添えて、林さんに依頼したのではという。

校歌は1〜3番までの歌詞がすべて「鐘」で結んである。鐘とは、体育館の玄関近くに設置された鐘楼のこと。94年の開校120周年を記念し、当時のPTA役員が中心となり、東京に長期滞在中だったはず。専念することは極めて難しかっただろう」と須子さん。2番の歌詞は「実に城山の雲高く」「南は明る有帆川」と続く。北の城山に対して、南に有帆川とあることと「この対比は城山に登ったことのある人にか書けない」と話し、万倉を熟知している人が歌詞の素描を書いたものを添えて、林さんに依頼したのではという。

1番は三家老の一人、国司信濃親相、2番は標高342.2mの城山（信田ノ丸城跡）、3番は国指定の伝統的工芸品の赤間硯（すずり）が登場し、万倉の象徴をつづった歌詞になっている。その地域の特色が詰まった歌詞を、子どもたちは誠実に歌い上げる。